

7. アジア太平洋地域における再生資源等の貿易と経済発展 に関する調査研究

1. 調査の目的

東アジアには近年躍進著しい中国を先頭に ASEAN、NIES など世界的にみて最も成長力を有する諸国が集中している。順調な経済発展を反映して、1人当たり所得も確実に上昇している。経済成長には技術や資源を必要とする。しかし、資源を自国はもとより東アジア域内でもまかないきれず、特に中国と世界第2位の経済大国日本は世界中から調達している。それでも急増する資源需要を満たすことができず、再生資源を輸入している。再生資源貿易の拡大は2つの重要な意味を有する。第1は廃棄物を再資源化して活用することは枯渇化しつつある天然資源の保護につながる。第2は環境保護である。本調査は再生資源（廃プラスチック、古紙、鉄鋼・銅・ニッケル・アルミ・鉛の各スクラップ）貿易を世界の貿易財と位置づけ、その財の流れを解明することを目的とする。

2. 調査結果の概要

世界の主要再生資源貿易の特徴は次のとおりであることが判明した。鉄鋼が最大規模である（世界貿易全体に占める割合は0.4%である。2004年）。鉛とニッケル以外の最大の輸入国は全て東アジアである（鉛とニッケルの最大の輸入国はともに欧州）。一国ベースで世界最大の輸入国は鉛とニッケルを除きいずれも中国である。輸出上位2地域・国は欧州と米国で、廃プラスチックの44.2%を除き全て世界輸出の3分の2以上を占める。一国ベースで日本はほぼ第3位の輸出国である。再生資源最大の輸出国である欧州の輸出先は域内であり、世界全体でみた主要再生資源貿易の主要舞台は太平洋で、その基本的循環構造は太平洋を挟み中国が輸入しそれに米国が輸出し、それに日本が補完するという構図である。